
湖西市総合計画第Ⅱ期実践計画 及び人口推計※について

令和7年7月29日 湖西市総合計画審議会

人口推計については、時間の都合上次回以降の審議となりました。

実践計画のテーマについて

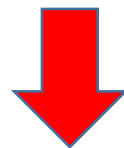
1

実践計画のテーマ

働くまちから 働いて暮らすまちへ 「職住近接」

湖西市は、自動車関連産業が集積する工業都市で、製造品出荷額は、静岡県下で静岡市、浜松市に次ぎ第3位となっており、市外から約15,000人が通勤する「働くまち」です。

人口減少・少子高齢化が進む中、湖西市が持続的に発展するためには、市外からの通勤者やその家族が、湖西市に定住することが生命線と言えます。このため、住環境の整備や、移住定住促進策を講じること



魅力ある 湖西市を こどもたちへ
～次世代につなぐチャレンジ～

魅力ある 湖西市を こどもたちへ ～次世代につなぐチャレンジ～

- 豊田佐吉翁のチャレンジ精神に倣い、湖西市の特性を活かしながら、未来への挑戦を進め、次世代へ誇れるまちを引き継ぎたい
- 未来を担うこどもたちに「住み続けたい」と思ってもらえるような魅力あふれる元気なまち

目標①

暮らしやすさの向上

住み続けたいまち

選ばれるまち

市民意識調査等で課題とされている分野を中心に、今住んでいる市民の暮らしをより良いものにする。



目標②

元気なまちの実現

訪れたいまち

憧れるまち

産業の一層の振興や、豊かな自然や文化を活かして観光交流を促進し、市内に賑わいをもたらす。4

魅力ある 湖西市を こどもたちへ ～次世代につなぐチャレンジ～

第Ⅰ期実践計画では、人口減少が進行する中で市が持続可能な発展を遂げるため、「働く場所が多い」という湖西市の特徴を活かし、市外からの通勤者を市内に移住させる取り組みを行いました。そして今後も、人口減少や少子化の進行、激甚化する災害、さらには新型コロナウイルスのような未知の感染症といったリスクを踏まえ、湖西市を取り巻く社会状況が変化していく中でも、持続的に発展するまちを目指す必要があります。

現在、最も重要な課題は、急激な少子化と若年層の転出による人口減少です。この状況を打破するためには、市民の「満足度」を向上させ、未来を担うこどもたちが「住み続けたい」と感じるような施策を実施することが求められます。

そのため、第Ⅱ期実践計画では、「魅力ある湖西市をこどもたちへ ～次世代につなぐチャレンジ～」をテーマに掲げ、生活満足度を高め、「暮らしやすさの向上」に繋がる施策と、産業全体の活性化や人々の交流を促進し、「元気なまち」の実現に向けて重点的な取り組みを進めていきます。

市民生活は防災、医療、福祉、子育て、教育など多岐にわたります。安全で快適な地域づくりを進め、健康で幸せな生活が送れるように医療や福祉を充実させていきます。さらに、育みと学びの環境を提供し、すべての人々が生活しやすい暮らし環境を整えることで、生活の満足度向上を図ります。

また湖西市には、恵み豊かな浜名湖や湖西連峰、その恩恵をあずかる農水産物などの地域資源や自動車関連産業に代表される「モノづくりのまち」としての強みがあります。これらの観光や産業経済の「強み」を積極的に施策に反映させ、「元気なまち」を実現していきます。さらに、自治体として適正な行政経営を推進し、デジタル技術を活用して社会課題の解決や魅力の向上を図ります。

目標の設定について

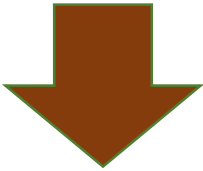
2つの目標 と 数値目標

暮らしやすさの向上

数値目標①	2025年度	2029年度
湖西市は住みやすいまちだと思いますか (出典: 市民意識調査)	_____ %	_____ %

元気なまちの実現

数値目標②	2025年度	2029年度
湖西市は賑わいのあるまちだと思いますか (出典: 市民意識調査)	_____ %	_____ %



数値目標③	2025年度	2029年度
これからも湖西市に住み続けたいと思いますか？ (出典: 市民意識調査)	_____ %	_____ %

➡ 「住みやすいまち」、「賑わいのあるまち」の満足度を高めることで「住みたい、住み続けたいまち」を目指していく

個別施策について

基本構想

KOSA「つづ・自然・業（わざ）」がつながら、未来へ続く わがまち

安心して暮らすことができるまち

結婚・出産・子育ての希望がかなえられ誰もが活躍できるまち

稼ぐ力に満ち、安心して働けるまち

新たなつながりを築き、新しい人のながれがあるまち

第Ⅱ期実践計画

魅力ある湖西市をこどもたちへ、次世代につなぐチャレンジ

目標

◆暮らしやすさの向上 ◆元気なまちの実現

大分類

地域づくり

産業経済

育み・学び

健康福祉

くらし環境

施策の小分類

- 1 防災・減災
- 2 交通安全・防犯
- 3 共生社会
- 4 土地政策

- 5 工業・商業
- 6 農業・漁業
- 7 産業人材の確保
- 8 観光振興
- 9 文化・芸術

- 10 子育て
- 11 学校教育
- 12 生涯学習・スポーツ

- 13 医療
- 14 健康
- 15 高齢者福祉
- 16 障害者福祉、地域福祉

- 17 消防・救急
- 18 循環型社会
- 19 都市インフラ
- 20 公共交通
- 21 環境

行政経営

22 DX推進

23 行政経営

実践計画の記載内容（第Ⅰ期実践計画からの変更点）

序章

第1章

第2章

策定経過

戦略1 安全・安心、医療、福祉

1 防災

① 現状と課題

② 策方針

③ 施策の二一ズ

④ 施策の成果指標

⑤ 今後の展開

⑥ Ⅰ期（2021～2025年度）における主な予定

⑦ 個別計画

基本事業とKPI

⑨ 1 防災訓練の実施

⑩ 2 自助・共助の強化

⑧

⑨

⑩

⑪

⑬

⑰

①現状と課題…見直し

②施策方針…「取り組むべき重点課題」として見直し

③施策の二一ズ…「重点事業」に置き換え

④施策の成果指標…見直し

⑤今後の展開

…基本事業として見直し（詳細は別冊資料扱い）

⑥主な予定…基本事業に統合

⑦個別計画…「関連する個別計画など」として見直し

⑧SDGs…見直し

⑨⑩基本事業とKPI

…別冊資料扱い（本編からは廃止）

①現状と課題

全国的に、過去に例を見ない大地震、大津波、局地的な大雨による土砂災害や河川の氾濫など大きな災害が頻発しています。今後、これらを視野に入れた具体的な対策が必要です。

住み続けられるまちづくりのために、行政の備え（公助）だけでなく、自分の身は自分で守る自助や、地域住民で協力する共助の意識を高め、防災力の底上げが必要とされています。

▲名古屋市命山（愛称「おたすけ山」）

②策方針

大地震や大津波、台風や大雨による災害などに対し、ハード整備及び自助、共助の意識を高めるソフト事業の両面で安心して暮らすことができるまちづくりを目指します。

③施策の二一ズ

18～39歳

40～59歳

60歳以上

全体

「防災」

あらゆる自然災害に備えるため、防災施設・資機材の整備・充実、自主防災組織の強化、市民一人ひとりの防災意識の醸成を図ります。

施策二一ズは、重要度が高く、満足度が標準の分野です。特に若い世代の重要度が高くなっています。

▲低い満足度 高い

④施策の成果指標

災害への備えができていない市民の割合

（市民意識調査で「十分できていない」「十分ではないが一部できていない」と回答した割合）

72.8%（2020年度） → 80.0%（2024年度） → 90.0%（2040年度）

十分できていない

十分ではないが一部できていない

できていない

2020年

（%）

0

10

20

30

40

50

60

70

80

90

100

⑤今後の展開

津波避難計画に基づいた整備完了後の施設の管理徹底

継続した防災訓練実施や避難所運営連絡会開催などの必要な支援

住民一人ひとりの災害意識の醸成を図るための効果的な啓発活動

⑥Ⅰ期（2021～2025年度）における主な予定

高師山地区津波避難タワー完成

上田町地区命山完成

⑦個別計画

地域防災計画

津波避難計画

国土強靱化地域計画

基本事業とKPI

⑨1 防災訓練の実施

災害に対する知識・意識の向上を図るため、年3回の防災訓練（総合防災訓練、地域防災訓練、夜間防災訓練）を実施します。

防災訓練を通じ、実災害でも地域で活躍できる人材の育成に努めます。

⑩2 自助・共助の強化

大規模な災害による長期の避難生活において、避難者や地域住民による円滑な運営ができるよう、避難所運営マニュアルの作成・見直し及運営訓練に対し支援をします。

性別や年齢、疾病や障害の有無等、多様な状況に立ちサポートします。また、女性や子ども等安全確保、プライバシーの確保などに配慮できるようサポートしていきます。

避難所運営訓練を実施した避難所の割合

23.1%（2019年度）

25.0%（2024年度）

46.7%（2019年度）

100%（2024年度）

⑧

⑨

⑩

⑪

⑬

⑰

①現状と課題

②施策方針

③施策の二一ズ

④施策の成果指標

⑤今後の展開

⑥Ⅰ期（2021～2025年度）における主な予定

⑦個別計画

基本事業とKPI

⑨1 防災訓練の実施

⑩2 自助・共助の強化

32

10



戦略1 安全・安心、医療、福祉

1 防災

①現状と課題

第Ⅰ期実践計画も含め、第Ⅱ期実践計画を策定するに当たっての解決すべき課題。もしくは考慮すべき現状。

②取り組むべき重点課題

「暮らしやすさの向上」と「元気なまちの実現」に向けて優先的に取り組むべき課題

③重点事業

取り組むべき重点課題を解決するために取り組んでいくこと

④基本事業

重点事業ではないが、第Ⅱ期実践計画期間中に市として「暮らしやすさの向上」と「元気なまちの実現」に向けて取り組んでいくこと

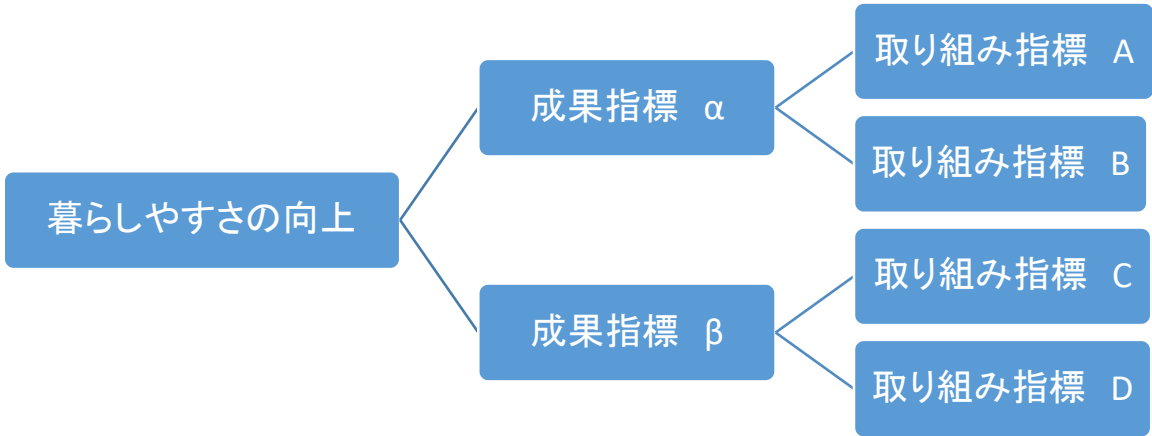
⑤成果指標（KGI）

課題に対する取り組みが「暮らしやすさの向上」と「元気なまちの実現」に向け繋がっているか図るための指標

⑥関連する個別計画

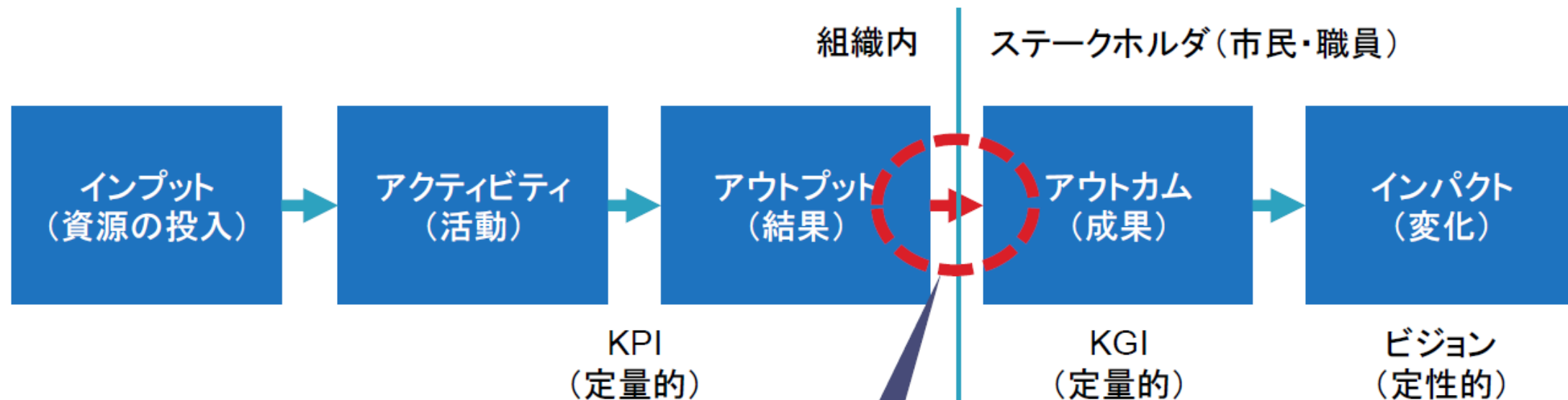
実践計画の記載内容（成果指標（KGI）、取り組み指標（KPI）別冊のイメージ）

	大分類	小分類	目標設定	重点事業	KGI(成果指標)	KGI(基準値)	KGI(目標値)	KPI(取り組み指標)	KPI(基準値)	KPI(目標値)
1	地域づくり	防災・減災	暮らしやすさの向上	地域の防災力向上	災害への備えができていると回答した市民の割合	66.50%	80%	防災訓練の実施回数	3回	基準値以上
			暮らしやすさの向上					避難所運営訓練を実施した避難所の割合	20%	100%
2			暮らしやすさの向上	災害時における医療救護体制の強化	サポートナース登録者数	22名	30名	研修会の実施、防災訓練の実施	2回	累計8回
3		交通安全・防犯	暮らしやすさの向上	交通安全運動の実施	交通事故件数	224件	200件	交通事故防止キャンペーン	4回	基準値以上
			暮らしやすさの向上					交通指導隊該当指導回数	2925回	3000回
4			暮らしやすさの向上	青色防犯パトロール	犯罪認知件数	220件	200件	青色防犯パトロール件数	97回	100回



- 別冊はワード、Excelなど職員が容易に更新できるもので作成し、**年に1度更新作業を行う。**
- **成果指標**については本編記載のため**4年間固定**。**取り組み指標**は、課として取り組むべき方向性が変わったら**差替えを可能**とする。
- 取り組み指標（**KPI**）が成果指標（**KGI**）に繋がり、「暮らしやすさの向上」または「元気なまちの実現」（**数値目標**）にながっていくことがわかるようにしていく。

アウトカムの保証は無い(KPIとKGIの違い)



KPI(取組指標)

湖西市がコントロールできる指標

KGIの達成に寄与するべく試行錯誤するものだが、設定したKPIは必ず実施しなければならない。

(例: 普及啓発のビラを1000枚配布する)

KGI(成果指標)

湖西市が達成したいビジョンを定量的に示した指標

(例: マイナンバーカードの交付率 80%)

アウトプットがアウトカムにつながるかは、
やってみないと判らない

実践計画の記載内容（基本事業別冊のイメージ）

基本事業			
大分類	小分類	基本事業	基本事業として想定している事業、施策など
地域づくり	防災・減災	防災・危機管理体制の整備	感震ブレーカーの普及促進、自主防災倉庫の更新、津波避難施設等整備、福祉避難所の指定の見直し
地域づくり	防災・減災	治山・治水対策の推進と災害危険箇所の整備	源
地域づくり	防災・減災	防災意識の啓発と防災行動力の向上	「で
地域づくり	防災・減災	耐震化事業の推進	木造 ロッ
地域づくり	防災・減災	減災化事業の推進	耐震 業、
地域づくり	交通安全・防犯	交通安全意識の高揚	
地域づくり	交通安全・防犯	道路・交通安全設備の整備	
地域づくり	交通安全・防犯	防犯意識の啓発と防犯体制の整備	

- 基本事業については、ある程度の事業が包含されているような記載振りとする。
- 基本事業が具体的に何を示すのか、別表を作成して追加・修正作業を実施していく。
- 別冊はワード、Excelなど職員が容易に更新できるもので作成し、年に1度更新作業を行う。

実践計画について（その他）

- 成果指標の**出典元**を明記（例：市民意識調査、担当課による独自アンケート、静岡県公表資料 など）
- 指標の記載は、横ばいの場合「**〇〇人以上（以下）**」などとする ※上向きに見えるように
- 増減を伴わない指標については、「**累計〇〇件**」などわかるように記載
- 基準値は2025年度とするが、基準値の数値が**どの時点の数値**かわかるよう明記

（例：2025年3月末、2024年度調査、2022年確定値 など）
- 第Ⅱ期実践計画の**製本印刷（冊子）**は作成しない